

動画制作を通じた情報活用能力の育成

2025年3月

松阪市子ども支援研究センター

長期研修員 宮本 光将

## はじめに

文部科学省が示す「学習指導要領」は、全国的に教育の水準を保つべく、教育課程の基準を定めたものです。社会の変化を見据え、子どもたちに必要な資質や能力について見直しを行い、おおむね10年ごとに改訂されています。現行の学習指導要領は2017(平成29)年に改訂されたもの(小学校では2020年、中学校では2021年に全面実施)で、早8年が経過しようとしており、次期改訂に向けた動きが始まっています。

2024年12月、文部科学省は中央教育審議会へ、次の学習指導要領改訂に向けた検討を諮問しました。「多様な子どもたちが主体的に深く学べること」をめざしたもので、画一的な教育から脱した、柔軟な教育課程の在り方などが強調されています。

その内ICT教育に係るものとして、「生成AIの発展などを踏まえ、知識の集積だけでなく、深い意味の理解を促す学びのあり方」「デジタル分野を含めた先端技術の教育の充実」「情報モラルやメディアリテラシーの育成強化」などが検討課題となっています。デジタル技術が急速に発達するなか、未来を担う子どもたちの教育をどのように行っていくのか、この先10年を見通しながら考えていかなければなりません。

本市においては、昨年度末より、本年度の研究テーマの候補の一つとして「映像のプロから学ぼう デジタル時代の表現力」を挙げていました。地元メディアのご協力を得ながら、1人1台端末を活用した動画制作を通して、児童生徒のデジタルによる表現力をみがき、その教育的効果を検証しようとするものでした。題材の捉え方や情報収集、撮影や編集の技術、発信にあたっての留意事項など、児童生徒の情報活用能力の育成にあたっては、非常に有意義なものとなることが期待でき、楽しい研究テーマ設定でした。

本年度、研究テーマを正式に「動画制作を通じた情報活用能力の育成」として研究を実施してきました。実態調査や地元メディアによる先生方への研修に始まり、著作権に関わること、受け手の分かりやすさや心地よさを意識した実践は、児童生徒の情報活用(動画作成)スキルを磨くことはもちろん、まさしく「情報モラルやメディアリテラシーの育成強化」につながるものであると感じています。

今後の課題として、意図的・計画的な情報活用能力の育成のためのカリキュラム・マネジメントが不可欠であることも見えてきました。

本研究の成果が、日々の実践の中で児童生徒の情報活用能力を豊かに育てていくカリキュラム作りのきっかけとなり、今後の教育実践に貢献することを願い、研究集録第148集としてまとめます。

最後になりましたが、本研究の実施にあたり、ご指導、ご協力を賜りましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

令和7年(2025)3月  
松阪市子ども支援研究センター  
所長 御堂 栄治

## 目次

### I 研究主題と目的

1 研究主題-----	1
2 主題設定にあたって-----	1
3 研究の目的-----	2

### II 研究に対する基本的な考え方

1 教員及び児童の実態調査-----	3
2 調査結果より-----	7
3 研究仮説-----	7
4 研究の方法-----	8

### III 実践と考察

1 各校の動画制作の実践-----	10
2 児童への事後アンケートより-----	14
3 考察-----	18

### IV 研究のまとめ

1 これからの表現活動について-----	19
2 終わりに-----	20

参考・引用文献-----	21
--------------	----

巻末資料-----	22
-----------	----

# I 研究主題と目的

## 1 研究主題

動画制作を通じた情報活用能力の育成

## 2 主題設定にあたって

子どもたちを取り巻くデジタル環境は、急速に変化し続けている。クラウド上でのやり取りを含めたコミュニケーションの多様化やAIの発達などは、子どもたちに多くの可能性を与えている。その一方でデジタル機器利用の低年齢化やネットトラブルへの対応などの課題も存在している。このような時代を生きていく子どもたちにとって、情報活用能力をはじめとする資質・能力を育むことが重要となってくる。

現在、情報活用能力については、文部科学省の「教育の情報化の手引き―追補版―」の中で図1のように整理されている。情報教育の3観点8要素は、情報を適切に活用し、理解し、社会で責任を持って行動するための指針である。

本市においては、令和3年度に1人1台端末の運用が始まってから今年度で4年目となり、児童生徒の情報活用能力の育成が進められている。家元ほか(2023)による本市の児童生徒を対象に行われた調査では、

「複数のアプリケーションを活用し、多

様な表現活動を行うことや児童生徒主体の学びに向かう活動ができないと自認している傾向にある」ことが明らかになった。ここでいう児童生徒主体の学びに向かう活動とは、ICTを活用した情報収集・分析・協働学習などのことである。さらに、家元ほか(2024)では、「小学校高学年の情報活用能力について、情報を整理・分析しまとめ発表する学習活動は実施できるという自認が向上し、中学校生徒の基本的な機能を活用する活動からアプリケーションを組み合わせる作品を作る学習活動を実施できるという自認が向上した」と報告している。一方で、「表現活動や主体的な学びに向かう活動に不安が残っている」ことが課題として指摘されており、児童生徒の表現活動や主体的な学びをさらに充実させていく必要があると考えられる。

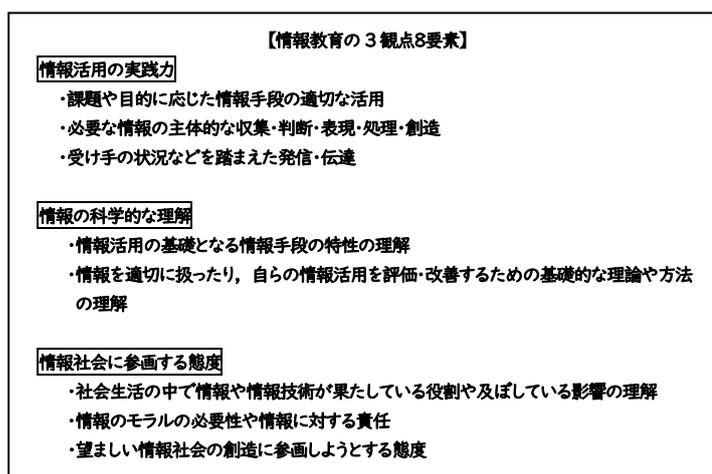


図1 教育の情報化の手引き ―追補版― (文部科学省) 2023

### 3 研究の目的

学校現場において、ICT機器の活用は年々進んでいる。「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果(学校質問紙)」でも、授業においてICT機器をどの程度活用しているかについて、週1回以上活用している割合が、全国で99.2%、三重県で99.6%、松阪市で100%と、市内での端末の活用は積極的に行われていることが分かる(図2)。また、自分の考えをまとめ、発表、表現する場面でICT機器を使用したかについて、週1回以上使用している割合が、全国で83.6%、三重県で90.6%、松阪市で91.7%と、こちらについても積極的に活用が進められている(図2)。一方で、ICTを使って学校外の施設にいる人々とICT機器を使ってやりとりしたかについて、週1回以上やりとりした割合が、全国で18.2%、三重県で12.9%、松阪市で16.7%であった(図2)。

このことから、学校外に情報を発信したり、受け取ったりするやりとりはなかなか進んでいないことが分かる。

そこで、本研究では、ICTを活用したコンテンツの制作やそれら発信する活動が、児童の情報を活用する実践力の向上にどのような効果があるのかを検証する。

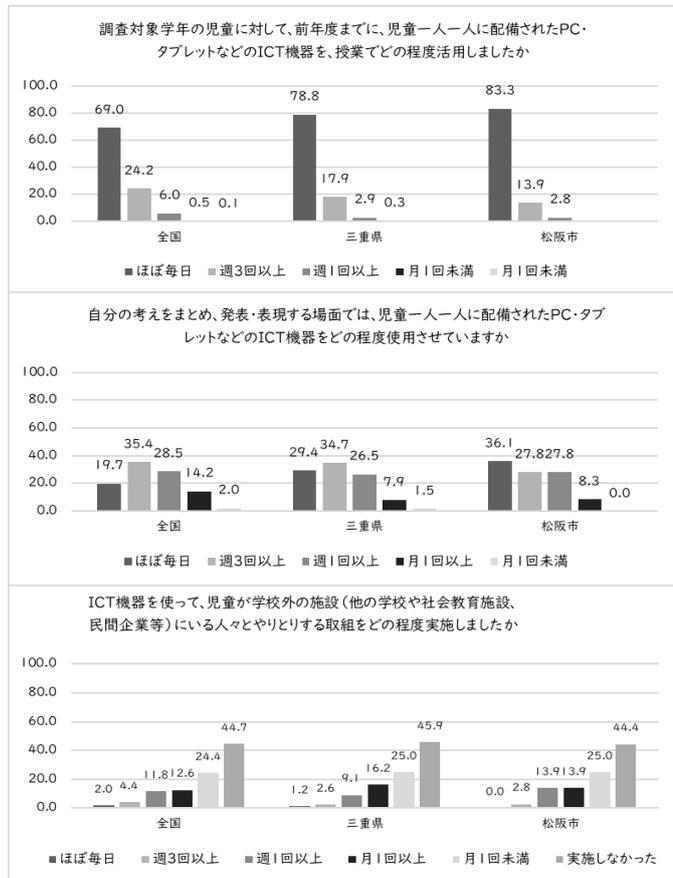


図2 ICTを活用した学習状況 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)〈国立教育政策研究所〉

## II 研究に対する基本的な考え方

### I 教員及び児童の実態調査

#### (1) 調査の概要

松阪市立柿野小学校、粥見小学校、松江小学校、松尾小学校に研究調査協力を依頼し、授業を担当する教員(42人)にICTの活用状況及び情報活用指導力についてのアンケートを行なった。また在籍する5年生、6年生の児童(185人)にICTの活用状況及び情報活用能力、情報モラルについてのアンケートを行なった。

#### (2) 家庭におけるデジタル機器にかかわる現状

##### ① デジタル機器の使用について

日常的に使用しているデジタル機器について、貸与されているタブレット端末以外にゲーム機やテレビ、スマートフォンの使用率が高い傾向にあることが分かった(図3)。自分専用のスマートフォンを持っている割合は全体の56%となっており、共用も含めると約70%の児童が日常的にスマートフォンを利用していることが分かった(図4)。

また、デジタル機器の使用用途は、ゲーム、インターネット検索、メッセージのやり取りが比較的割合が高い傾向にあった(図5)。割合が低かった項目は「写真や動画の編集」で、小学校段階ではSNS等を利用した情報発信や投稿はほとんどしていないことが分かった。

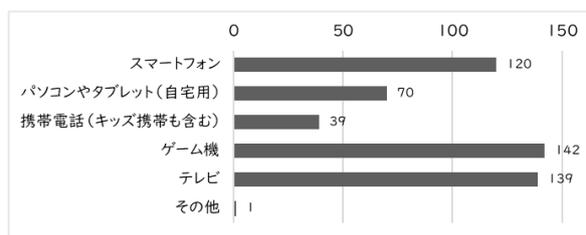


図3 デジタル機器の使用率

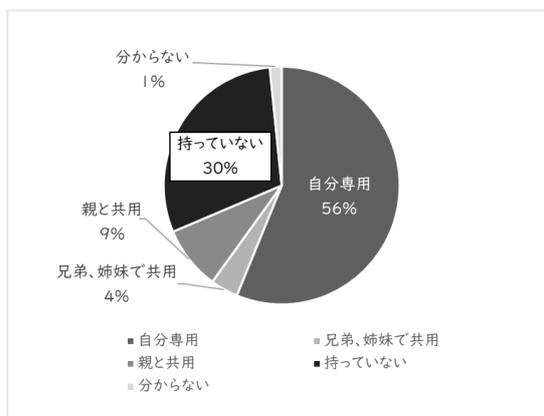


図4 スマートフォンの専用・共用

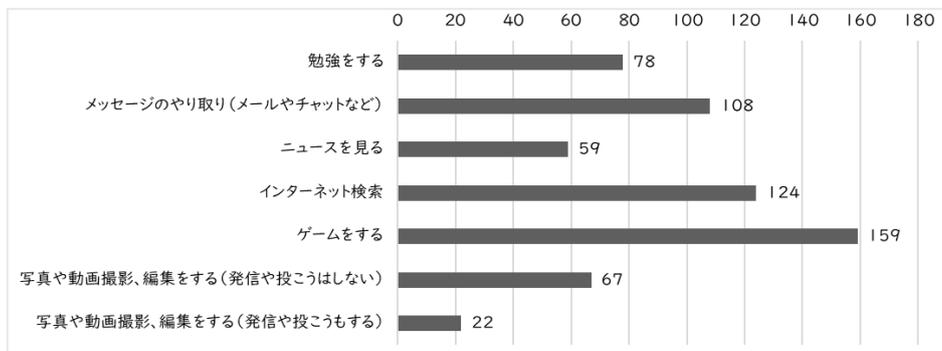


図5 デジタル機器の使用用途

## ② 家庭内におけるルール

ルールの有無の割合は、あるが81%、ないが19%であった(図6)。また、家庭で情報モラルについて教えてもらったことがある児童が51%であった。(図7)。主に使用時間や個人情報、利用制限などのルールが定められている現状があった。

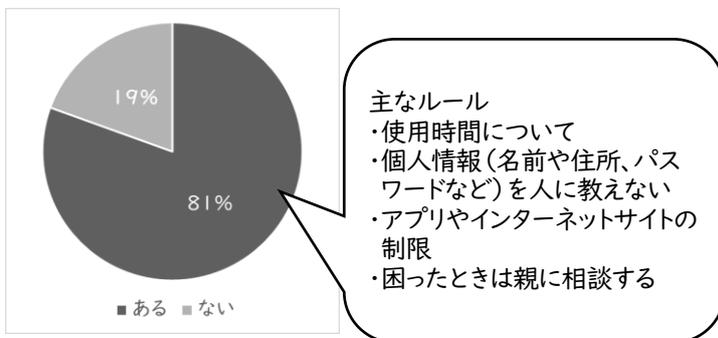


図6 家庭内におけるルールの有無

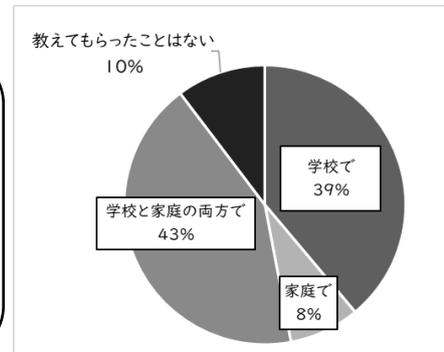


図7 情報モラルについて家庭や学校で教えてもらったことはあるか

## (3) ICT活用にかかわる現状

### ① タブレット端末の使用場面と使用時限

授業内でタブレットを使用する場面として、「よく使用する」「時々使用する」の割合が最も高かったのがA1:教材の提示の95.4%であった。対して最も低かったのがC4:学校の壁を越えた学習の46.5%で、次いでC3:協働学習の44.2%という結果となった(図9)。



図8 「学びのイノベーション事業」実践研究報告書〈文部科学省〉

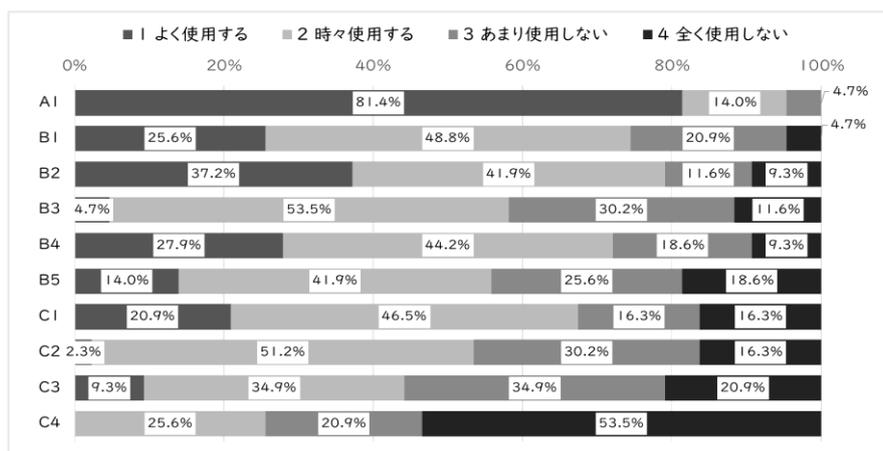


図9 タブレット端末の使用場面

教員の授業でのタブレットの使用頻度は、「3～4時間」の46%が最も高く、児童では「1～2時間」の58%が最も高かった。「ほぼ使用しない」で見ると、教員は4%なのに対して児童は15%であった(図10、11)。教員は教材や資料の提示などをすることから授業内で使用する頻度が高いと考えられる。児童については発達段階や学習内容によって使用時限に差が見られるが、ほぼ毎日活用されていることが分かった。

これらのことから、学習活動においては各校で積極的に活用が進められており、その使用場面についても多岐にわたっていることが分かる。

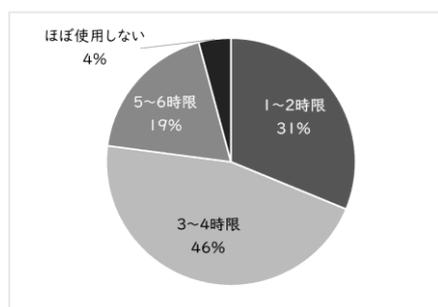


図10 タブレット端末の使用時限(教員)

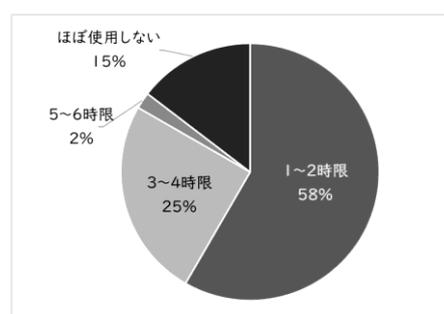


図11 タブレット端末の使用時限(児童)

## ② 情報活用能力

児童の情報活用能力に関するアンケートからは、「インターネットを使って情報を集めることができる」については「できる」「まあまあできる」と回答した割合が91%と高く、多くの児童が情報収集のスキルがあることが分かった。また、デジタル・コンテンツの制作に関しては、「写真や動画の編集ができる」に対して、「できる」「まあまあできる」と回答した割合が65%であり、編集については経験している児童がある程度いることが分かった。しかし、「画像や動画、音楽などを組

み合わせて動画を作ることができる」では、「できない」「あまりできない」が41%になっていることから、複数のアプリを組み合わせた表現活動には課題があることが明らかとなった(図12)。

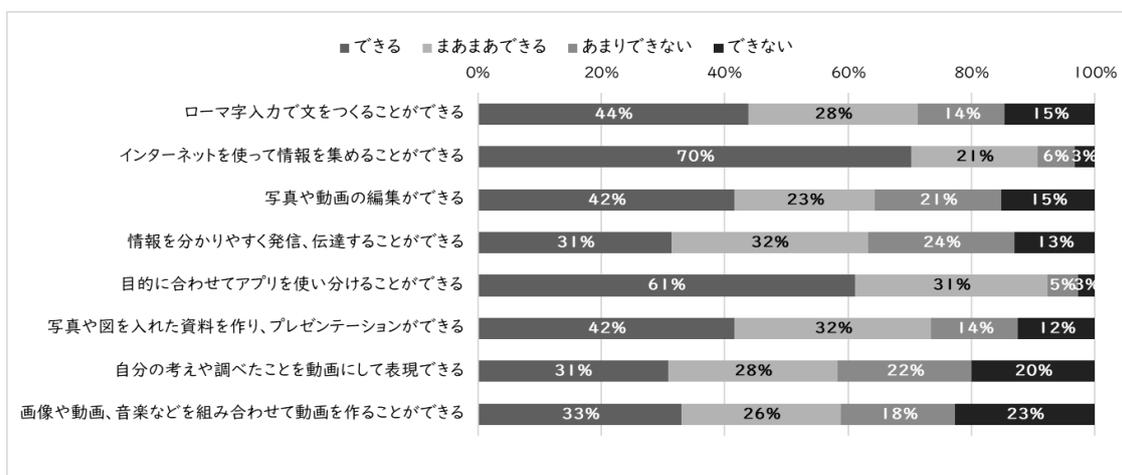


図12 情報活用能力(児童)

教員の情報活用指導力については、「ウェブブラウザを使った情報収集」について「できる」「まあまあできる」と回答した割合が83%であった。また、「それぞれが調べたい情報について適切な手段を用いて調べる」についても「できる」「まあまあできる」と回答した割合が93%であったことから、基礎的な情報収集の指導は多くの教員が対応できているということが分かる。一方で、「集めた情報をもとに、映像作品を作るように指導できる」では、「あまりできない」「できない」と回答した割合が38%となっており、「受け手が理解しやすいようにデザイン等を工夫した作品を作るように指導できる」でも、「あまりできない」「できない」と回答した割合が23.8%と高いことが分かった。また、「オンライン上での情報発信を目的とした作品作りの指導」についても、「あまりできない」「できない」と回答した割合が41%と高いことから、表現に関する指導について不安のある教員が一定数いることが分かった(図13)。それぞれの回答の理由は以下の通りである。

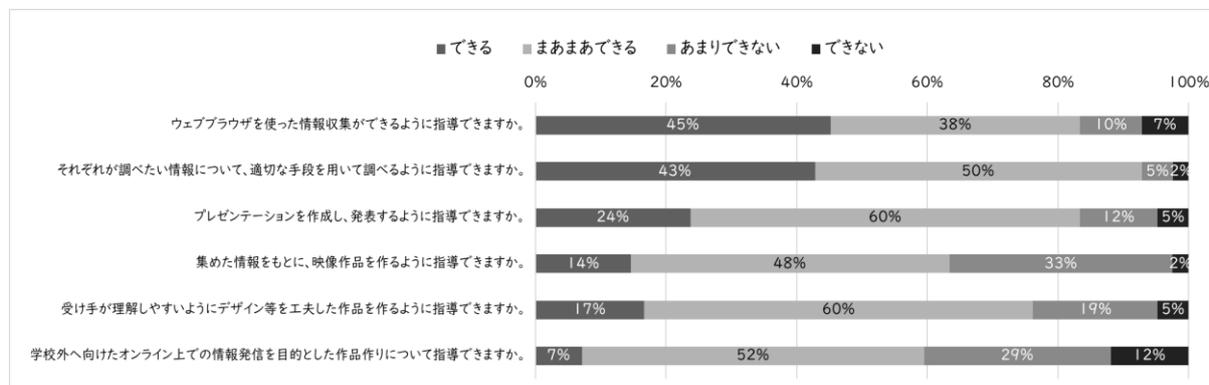


図13 情報活用指導力(教員)

### [集めた情報をもとに、映像作品を作るように指導できない理由]

- ・これまでに指導経験がないから。
- ・自分自身が映像作品を作り慣れていないため。
- ・iMovie を使用したが、こちらが行うことが多かったから。
- ・自分自身が動画編集をすることが得意ではないから。
- ・挑戦したことがない

### [オンライン上での情報発信を目的とした作品作りについて指導できない理由]

- ・経験がないから。
- ・そのような機会が今までないのでイメージしにくい。
- ・情報発信をしようとしたことがない(外部に向けて)。する時間がない。
- ・情報発信のための作品作りの機会がなかった。
- ・オンラインで発信する作品を作る機会がない

## 2 調査結果より

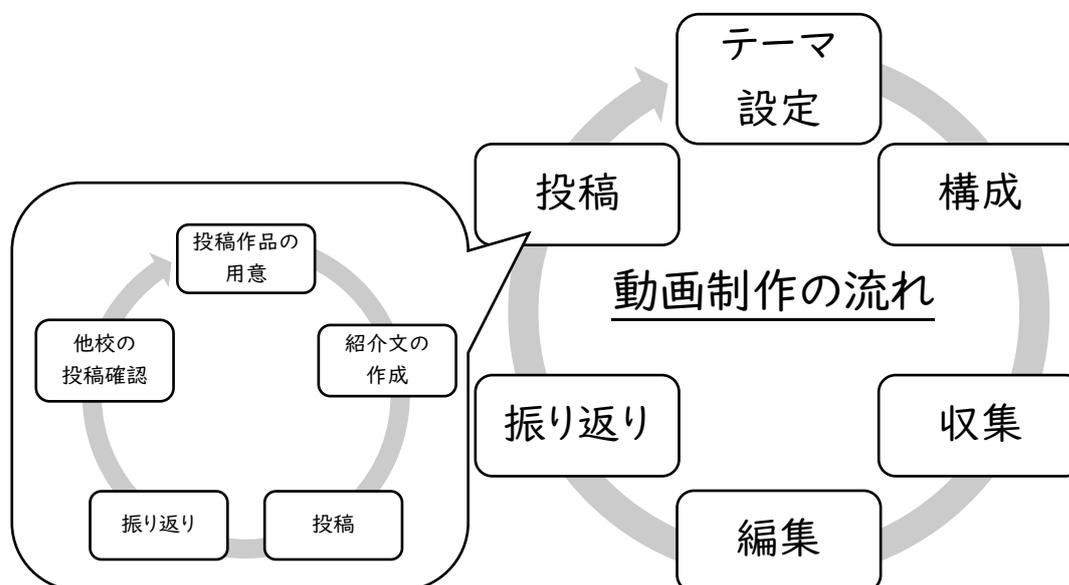
アンケートの結果から、情報活用能力について基本的な端末の操作や、情報収集に関するスキルは多くの児童が持っていることが分かった。教員についても、インターネットを使った情報収集や、目的に合わせた情報収集の手段の使い分けについては、指導できることが分かった。これまで、タブレット端末が導入されてから教員が日々どのように活用するのかを試行錯誤し、実践してきたことが児童の情報活用能力の育成につながっていると考えられる。しかしながら、児童、教員ともに表現や発信に関する情報活用能力、情報活用指導力に課題が見られた。具体的には画像や動画、音楽などを組み合わせた動画の作成や、情報を適切に扱って発信することである。これらの活動の中には、情報活用能力における情報の収集・整理・比較・発信・伝達が含まれている。そのため、ICTを活用した表現・発信は児童の情報活用能力を向上させる為に、学習活動の中で実施してくべき活動の一つであると考えられる。

## 3 研究仮説

動画制作やインターネット上への作品投稿を経験する場を設定し、受け手を意識しながら表現することで、情報活用能力や表現力の向上、情報を正しく扱うための知識の向上につながると考える。

## 4 研究の方法

### (1) 活動の流れ



### (2) 動画制作について

動画制作にあたっては、児童用端末の標準機能である「iMovie」というアプリを使うこととした。アプリ内にあるテンプレートを用いて、事前に用意した写真や動画を選択することで誰でも動画制作をすることができる。また、写真や動画をトリミングしたり、音楽やテロップを入れたりできる編集機能を使って動画制作ができるようになっている。

また、動画制作に伴い、松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社の方を講師として動画制作についての市内教員向けのオンライン研修を実施し、研究協力員の4人にも受講していただいた。その後、動画制作の指導におけるポイントを整理、共有した。

### (3) 作品投稿を行うオンラインサイト

作品投稿という情報発信をしていくにあたって、夕刊三重新聞社が運営する「まなぼっと」を活用していく。従来からある「YoMotto」をもとに、小中学生向けに学校での利用を想定したものになっている。新聞記事を読めたり、学習活動で作成した作品の投稿(みんなの広場)ができたりするサイトとなっている(図14)。また、児童個人にアカウントを割り当て、ログイン認証を必要とすることで閉じられた空間での交流ができるようにしている。今回の研究では、「まなぼっと」内の「みんなの広場」を活用し、2校間で情報発信・伝達を行い、交流をすることとした。



図14 まなぼととのウェブ画面

#### (4) 研究の流れ

- ① 市内4校の小学生5・6年生と教員に事前アンケートを実施し、実態把握を行う。
- ② 研究協力員に「みんなの広場」の活用方法と動画制作の流れを共有する。
- ③ 研究協力員のクラスで、学習の成果物を「みんなの広場」に投稿する。また、総合的な学習の時間で学習した学校や地域について紹介する映像作品の制作を行う。
- ④ 研究協力員と対象クラスに事後アンケートを行う。

### Ⅲ 実践と考察

#### Ⅰ 各校の動画制作の実践

##### (1) 表現力の向上が見られた実践

###### ① テロップを使った情報の補足

林業に関する出前授業で体験したことを紹介するスライドショー形式の動画で、静止画像をつなげ、テロップを入れて活動の説明をしていた(図15)。その他の動画でもテロップは良く使われており、主に表示された画像の説明や感想などに使われていた。テロップの文は受け手のことを考えて短くまとめられていた。



テロップを使って、画像の補足説明をしている。

図15 テロップを入れてある動画

###### ② セリフの内容や話し方などの事前準備

ワンカットで撮影された動画では、事前に考えたセリフを覚えてから撮影することで、カメラに顔を向けて話ができていた(図16)。撮影前の準備の様子からも、セリフの内容についてグループで話し合いをくり返すことで、より受け手に伝わりやすい内容にしようとする姿が見られた。



原稿を見ずにカメラ目線で受け手に伝わるように話している。

図16 カメラ目線で撮影している動画

### ③ 撮影方法の工夫

撮影をした動画のほとんどでカメラを固定して撮影していたため、ブレがなく受け手も見やすい動画になっていた(図17)。手持ちでカメラを動かして撮影していた動画も、できるだけブレを少なくするように気を付けていた(図18)。また、お茶の淹れ方について紹介した動画では、一部を大きく映すアップと全体を映すルーズを使い分けて撮影していた(図19)。



図17 固定で撮影している動画

タブレットを固定することで、グループ全員が映るようにでき、ブレなく撮影することができる。



図18 手ブレなく撮影している動画

タブレットを手で持って動かしながらもブレなく撮影するように気を付けていた。



図19 アップとルーズを使い分けた動画

はじめは動画の説明なので全体が映るようにルーズで、お茶を入れる場面では手元が見えるようにアップで撮影していた。

## (2) 情報収集・整理・伝達能力の向上が見られた実践

### ① 必要な情報の収集

自分たちの伝えたいテーマに合うような画像や映像を撮影したり、インターネット上から引用したりされていた(図20)。また、地域学習を通して深めたいと思った内容について、インターネットを活用して情報収集することができていた(図21)。



図20 実物を見せながら撮影した動画

自分たちの学校にある本物の藁アートや動画内で説明した和紙を見せることで、受け手に分かりやすく説明していた。



図21 学習から自分で調べたことを説明した動画

林業をされている方との出会い学習から、本人が気になった伐採された木の行方について調べ、原木市場について紹介していた。

### ② 受け手に伝わりやすい構成

自分たちが伝えたいことが受け手に伝わるように、話や画像の順序を工夫しながら動画制作をすることができていた(図22)。編集作業をしているときにも、グループで意見を出し合いながら試行錯誤する様子も見られた。



図22 体験の流れが分かる動画

ラテアートについて体験したときようすについて、高校生に手本を見せてもらい、実際に教えてもらいながら体験したという流れが分かりやすく端的にまとめられている。

### (3) 情報モラル意識の向上が見られた実践

#### ① 出典の記載

文章や写真などを引用した際に、出典を最後に記載することで、著作権に配慮して動画制作を行うことができていた(図23)。

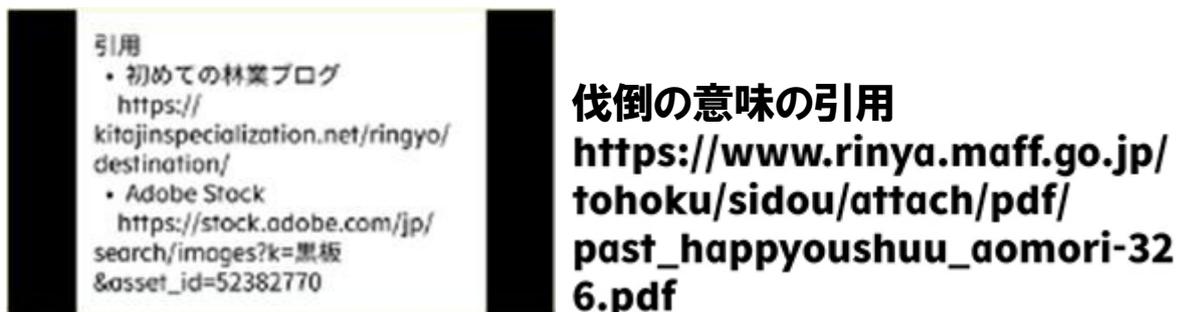


図23 最後に引用元を記載した動画

## 2 児童への事後アンケートより

### 【設問】

- ・動画制作は初めてしましたか。
- ・したことがある人は、いつしたことがありますか。
- ・動画を作るにあたって工夫したことや意識したことを具体的に教えてください。

今回、実践に取り組んだ学校において、動画制作を初めてした児童は56%で、約半数に上った。すでにしたことがあった児童のうち「授業でした」は81%、「授業以外でした」は19%であり、授業を通しての経験が大半をしめた(図24、25)。

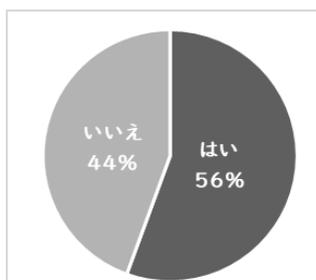


図24 動画制作を初めてしたかどうか

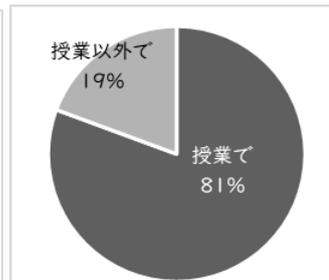


図25 いつしたことがあるか

また、今回の動画制作の目的であった相手を意識した動画制作については、アンケートの回答の以下のような点から意識して取り組んだことが分かった。

### [動画制作で工夫したこと・意識したこと]

- ・文字と写真を見ている人が全部読めるか、全部見られるかを意識した
- ・画像や写真の順序をこだわった
- ・文字を見えやすくすることを意識した
- ・大きな声でハキハキと喋る
- ・説明している内容にあう写真を動画に載せること

動画制作について経験したことがある児童は、主に授業で動画制作を経験していることが分かった。

### 【設問】

- ・今後も学習の中で動画制作をしたいと思いませんか。
  - ・調べたことや学んだことを伝える方法として、自分に合うものは何だと思いませんか。
- (複数回答可)

今後も学習活動の中で動画制作をしたいと思っている児童は、「そう思う」「まあまあそう思う」を合わせて96%であった(図26)。また、自分に合った表現方法についての質問をすると、「話をする」「プレゼンテーション」「動画」を選んだ児童が多かった(図27)。児童がそれぞれの表現方法を選んだ理由は以下の通りであった。

【「話をする」を選んだ理由】

- ・自分の言葉で言えるから話しやすい。 ・すぐに伝えられる。
- ・途中で「何か違うな」と思った時にすぐ変えられる。
- ・喋る方が分かりやすいと思う。 ・直接話した方が伝わりやすいと思った。

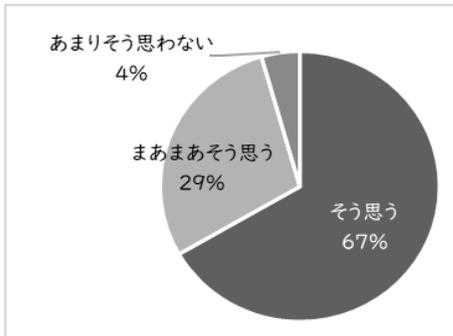


図26 今度も動画制作をしたいか

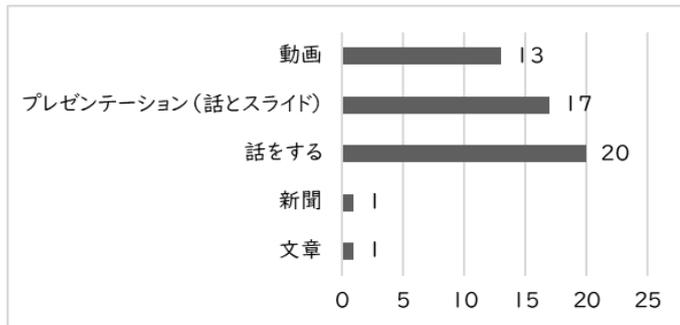


図27 自分に合った表現方法

【「プレゼンテーション」を選んだ理由】

- ・画像を見ながら話せるから、相手も分かりやすいし、自分もやりやすい。
- ・タブレットで発表することで、自分が一番伝えたいことを書ける。
- ・資料があることで分かりやすい。 ・スライドを作るのが得意。

【「動画」を選んだ理由】

- ・動画を作ることが得意。 ・いろいろな人に知ってもらえることができる。
- ・動画を作って分かりやすくてできる。 ・動画の方が話をするより伝わりやすい。

【設問】

- ・投稿をするときに意識したことは何ですか。

今回、投稿について児童に話をした際に、児童から「投稿してから間違いがあったら直せるのか」「あとから消せるのか」といった声があり、閉じられた空間とはいえインターネット上に投稿するという点について、不安があるようであった。

実際に投稿を行う中で、どんなことを意識して活動したのかを聞くと、多くの児童が著作権や個人情報、言葉遣いと回答した。児童が情報発信には責任が伴うことを理解しながら活動を行っていたことが分かった。しかし、中には著作権の意味をしっかりと理解できていなかったり、ネット画

像を使用した際に引用元を書いていなかったりするなど、継続的に情報の扱い方について学んでいく必要性も感じられた。児童の回答について以下にまとめる。

[投稿するときに意識したこと]

- ・著作権の確認 ・勘違いなどをさせてしまう発言などに注意した
- ・個人情報を載せないこと 失礼な言葉を使ったり、著作権に違反したりしないようにすること
- ・相手が傷つかない言葉にすること

【設問】

- ・他の人の投稿を見ることができるとはよいことだと思いますか。
- ・他の人の投稿を見て自分の学習に活かせると思ったことは何ですか。

他者の投稿を見ることができるとはよいかという問いに対しては、「そう思う」「まあまあそう思う」と回答した児童が98%で肯定的な意見が多かった(図28)。その理由についても、「他の人の意見や考えを知ることができる」「他の人の作品や工夫を参考にできる」「他の学校や地域のことを知ることができる」「新しい発見があり勉強になる」といった意見が見られた。他の学校の児童の学習のようすを知ること、児童はまとめ方のちがいや表現の仕方のちがいに気づくことができている。また、そこから自分の学習に活かせることや参考にしたいことなどを考え、学びにつなげることができていた。児童の意見を以下にまとめておく。

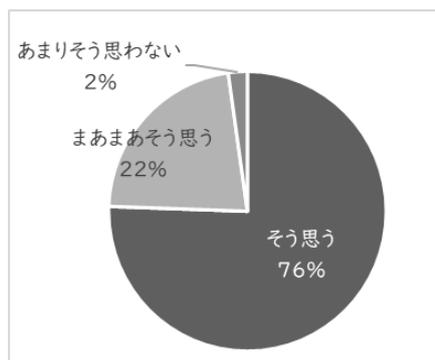


図28 他の人の投稿をみることができるとはよいか

[他の学校の人の投稿を見ることができることがよいと思う理由]

**〈他の人の意見や考えを知ることができる〉**

- ・いろいろな学校の作品や意見を見ることができる。
- ・みんなの考えを知ること、自分の考えが広がる。
- ・どんなテーマや書き方があるのか分かる。
- ・考えや工夫をみんなで共有できる。

**〈他の人の作品や工夫を参考にできる〉**

- ・みんなの作品を見ると、自分の作品作りの参考になる。
- ・工夫したところを見つけて、自分の作品にいかせる。
- ・自分にはなかったアイデアを知ることができる。

**〈地域や他校のことを知ることができる〉**

- ・ほかの学校の作品を見ることができる。
- ・ほかの学校や地域のことを知ることができる。

**〈新しい発見や学びがある〉**

- ・知らなかったことを知ることができる。
- ・考え方のちがいに気づいて、新しい発見ができる。

[他の人の投稿を見て、自分の学習にいかせると思ったこと]

**〈文章の書き方〉**

- ・いろんな書き方があること
- ・文を分かりやすくまとめる工夫があること
- ・文字の大きさや並べ方を変えると読みやすくなる

**〈写真や動画の使い方〉**

- ・写真を入れると分かりやすくなること
- ・動画に字幕や音をつけると楽しくなること
- ・編集するともっと伝わりやすくなること

**〈文字やデザインの工夫〉**

- ・文字の色や大きさを変えると見やすくなること
- ・絵やイラストを入れると分かりやすくなること

**〈学びにいかせること〉**

- ・ほかの人の工夫を見て、まねしたり参考にしたりできる
- ・知らなかったことを知って、新しいアイデアがうかぶ

### 3 考察

#### (1) 表現活動における動画制作

受け手を意識した表現力の向上については、児童が動画制作を通して、情報を視覚的に整理し、伝わりやすくする工夫が見られた。特に、テロップの活用においては、写真だけでは十分に伝えきれない情報を補足するために、短い文で簡潔に表示する工夫が見られた。また、撮影の工夫として、カメラを固定してブレを抑えたり、アップとルーズを使い分けたりすることで、受け手にとってより分かりやすい映像にする工夫も見られた。このように受け手に伝えるための表現方法を意識しながら制作に取り組むようすは、動画制作ならではの学習効果であると考えられる。

次に、情報を収集・整理・伝達する能力については、児童が伝えたいことが伝わるような情報を収集し、適切な順序で構成する力の向上が見られた。例えば、ラテアート体験についてまとめた動画では、自分が体験した流れに沿って決められた時間の中に収まるように構成することで、受け手に伝わりやすくなるように工夫されていた。このことは、児童への事後アンケートの「自分が伝えたい内容に合った情報の収集や整理をしながら表現した」という回答にも表れている。このように創意工夫しながら動画制作ができたことは、受け手を意識して動画制作を行った効果であると考えられる。

そして、情報モラル意識の向上も、今回の実践において見られた成果の一つである。動画制作を進める中で、児童はインターネット上の画像を使用する際の著作権や個人情報の扱いに注意したことがアンケートからも分かっており、動画内でも出典を記載していた。また、実践前には投稿に不安を持っていた児童がいたが、実践後のアンケートからは間違った情報を投稿しないように気を付けたり、言葉遣いに気を付けたりしたという回答があった。これらのことは、児童が情報モラルについて理解を深め、責任をもって情報発信しよう意識したことを表している。

このことから、これまでの表現活動に加えて、動画制作を行っていく価値は十分にあると考えられる。

#### (2) 動画制作の位置づけについて

実践の中で、動画制作を行うにあたって、事前説明や情報収集、撮影、編集などに時間を要した。特に編集作業では試行錯誤しながら撮影、編集を進めている児童の姿が見られた。また教員のアンケートに「動画制作をする時間の確保が難しい」という回答があった。現状のカリキュラムの内容に、新たに動画制作を加えていくことは難しい。子どもたちの情報活用能力向上のために、動画制作が有効であることについて共通認識を図り、効果的にカリキュラムに位置付けていくことが課題である。

## IV 研究のまとめ

本研究では、児童がICTを活用した表現活動の中で、受け手を意識することで情報活用能力や表現力を向上させることができるように動画制作や投稿の実践に取り組んだ。実践やアンケートから明らかになったことをもとに、ICTを活用した表現活動のこれからについて述べ、研究のまとめとする。

### 1 これからの表現活動について

今回の実践を通して、動画制作が児童の情報活用能力を向上させる表現活動であることが明らかとなった。動画制作がこれまでの表現活動と違った点は、自分の制作した動画を視覚的に確認し、改善点を見つけながら試行錯誤することができることである。これにより、児童は受け手の立場に立って自分の動画を評価し改善することができ、結果として情報活用能力や表現力を向上させることにつながったと考えられる。また、児童は日常的にテレビやSNSなどで動画を視聴する機会があり、児童にとって動画はとても身近なコンテンツの一つである。その動画を今回は自分たちで制作するという点について、最初は「難しそう」「本当にできるの」と不安がっている児童も見られた。しかし、事後アンケートでは、「今後も動画制作を学習の中でしたい」と回答した児童が96%いたことが分かった。このことは動画制作が児童にとって意欲的に取り組むことができる活動になったことを表している。しかし、表現方法として動画以外の方法も自分には合っているとアンケートで回答した児童もいた。そこでまずは、それぞれの表現方法の特徴を理解することが大切だと思われる。動画の良さは短時間で多くの情報を発信できたり、対面でなくても伝えられたりする点にある。このことを理解した上で、動画制作も表現活動の一つとして取り組んでいくことが大切である。今後は、それぞれの表現方法の特徴を活かしながら、目的に合った方法を自分たちで判断し、選択していく力が必要となっていくことが考えられる。

今後、動画制作をどのように学習活動に位置づけ、効果的に実施していくか検討する必要がある。動画制作には、撮影や編集の技術だけでなく、情報の整理や発信のスキルも含まれるため、すべての学習活動の中で育成できると考えられる。三宅ほか(2013)では、「児童生徒の発達段階に応じて、表現ツールの一つとして映像で表現することをスキルとして身に付けておく必要性を感じた。関連して大きな課題として挙げられるのが、学年や発達段階に応じてどこまでスキルを身に付ければよいのかという点である」と指摘している。そのため今後、小学校6年間、中学校3年間で、各教科においてどんな情報活用能力を身に付けていくのか、情報活用能力の体系表例をもとに各学校でカリキュラムに位置づけていくことが重要である。また、情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力であり、単なる技能の習得にとどまらず、思考力や表現力、判断力

といった力と結びつく。そのため、すべての教科を通じて継続的に育成し、児童が主体的に情報を活用できる力を身に付けることが重要である。

## 2 終わりに

ICTを活用して学習することで、これまでできなかつたり、時間がかかり過ぎたりした学習活動に取り組むことができるようになったと感じた。今回の実践でいえば、動画制作を行い、学校外の人と交流したことである。タブレット端末やクラウドを活用することで、学習の幅が広がり、児童の学びも多様になった。

実践においては、研究協力校の教員一人ひとりが児童の学びにつながるように試行錯誤しながら取り組んでいた。研究協力校をはじめ、ご支援いただいた皆様に感謝したい。自分自身も今後、ICTをどのように活用すれば、児童一人ひとりの学びにつながるのかを考えながら日々の実践を積み重ねていきたい。

本研究をきっかけに、動画制作を含めた表現活動が、児童生徒の情報活用能力育成の為、カリキュラムの中に定着していくことを願う。

【参考・引用文献】

<p>文部科学省『教育の情報化に関する手引き-追補版-(令和2年6月)』 ／2020年</p>	
<p>文部科学省『学びのイノベーション事業実証研究報告書』 ／2014年</p>	
<p>文部科学省『(令和元年度)次世代の教育情報化推進事業 情報教育の推進等に関する調査研究 成果報告書 情報活用能力の体系表例』 ／2019</p>	
<p>子ども家庭庁『令和5年度 青少年のインターネット利用環境実態調査(報告書)』／2024年</p>	
<p>国立教育政策研究所『令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)』 ／2024年</p>	
<p>家元瑛基, 池之上勇斗, 北澤武, 益川弘如『児童生徒の情報活用能力の保持自認と教師のICT活用指導力の保持自認における分析』日本教育工学会研究報告集／2023年</p>	
<p>家元瑛基, 池之上勇斗, 北澤武, 益川弘如『児童生徒の情報活用能力と教員のICT活用指導力の経年変化分析—自治体のICTに対する取り組みに着目して—』日本教育工学会研究報告集／2024年</p>	
<p>三宅裕之, 石橋純一郎, 田中靖浩, 木原貴史, 栃木達也『児童生徒の情報活用能力を育む映像制作』川崎市総合教育センター研究紀要第26号 ／2013年</p>	
<p>山崎達壘 (著) 平井聡一郎 (監修) 『動画・映像制作が創るクリエイティブな学び』インプレス／2023年</p>	

【巻末資料】

<情報活用能力の体系表例>

【情報活用能力の体系表例(IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの)】(令和元年度版)全体版

■情報活用能力の体系表例全体版(ステップ1～ステップ5)

分類		ステップ1	ステップ2	ステップ3		
A 知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能	a コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作	キーボードなどによる文字の正しい入力方法	キーボードなどによる文字の正確な入力	
			b 電子ファイルの呼び出しや保存	電子ファイルの検索	電子ファイルのフォルダ管理	
			c 画像編集・ペイント系アプリケーションの操作	映像編集アプリケーションの操作	目的に応じたアプリケーションの選択と操作	
		②情報と情報技術の特性の理解	d		インターネット上の情報の閲覧・検索	電子的な情報の送受信やAND、ORなどの論理演算子を用いた検索
			a		情報の基本的な特徴	情報の特徴
			b			情報を伝える主なメディアの特徴
			c			
			d コンピュータの存在	身近な生活におけるコンピュータの活用	社会におけるコンピュータの活用	
			e		コンピュータの動作とプログラムの関係	手順とコンピュータの動作の関係
	③記号の組合せ方の理解	a	大きな事象の分解と組み合わせの体験	単純な繰り返し条件分岐、データや変数などを含んだプログラムの作成、評価、改善	意図した処理を行うための最適なプログラムの作成、評価、改善	
		b		手順を図示する方法	図示(フローチャートなど)による単純な手順(アルゴリズム)の表現方法	
	2 問題解決・探究における情報活用方法の理解	①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解	a 身近なところから様々な情報を収集する方法	調査や資料等による基本的な情報の収集の方法	調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法	
			b			
			c 共通と相違、関係などの情報と情報との関係	考えと理由、全体と中心などの情報と情報との関係	原因と結果など情報と情報との関係	
d				情報の比較や分類の仕方	情報と情報との関係付けの仕方	
e 簡単な絵や図、表やグラフを用いた情報の整理の方法			観点を決めた表やグラフを用いた情報の整理の方法	目的に応じた表やグラフを用いた情報の整理の方法		
f				情報の特徴、傾向、変化を捉える方法	複数の観点から情報の傾向と変化を捉える方法	
②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解		g		自他の情報を組み合わせて表現する方法	複数の表現手段を組み合わせて表現する方法	
		h		相手に伝わりやすいプレゼンテーションの方法	聞き手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーション方法	
		i				
		a	問題解決における情報の大切さ	目的を意図して情報活用の見通しを立てる手順	問題解決のための情報及び情報技術の活用計画を立てる手順	
		b	情報の活用を振り返り、良さを確かめること	情報の活用を振り返り、改善点を見いだす手順	情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見いだす手順	
3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解	a	情報社会での情報技術の活用	情報社会での情報技術の働き		
		b		情報化に伴う産業や国民生活の変化		
	②情報モラル・情報セキュリティの理解	a	人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があること	自分の情報や他人の情報の大切さ	情報に関する自分や他者の権利	
		b			通信ネットワーク上のルールやマナー	
		c	コンピュータなどを利用するときの基本的なルール	生活の中で必要となる基本的な情報セキュリティ	情報を守るための方法	
		d			情報技術の悪用に関する危険性	
e		情報の発信や情報やりとりする場合の責任	発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響			
f			情報メディアの利用による健康への影響			
B 思考力・判断力・表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報とその結び付きの観点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力	体験や活動から疑問を持ち、解決の手眼を見通したり分解して、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する	収集した情報から課題を見つけ、解決に向けた活動を実現するために情報の活用の見通しを立て、実行する	問題を焦点とし、ゴールを明確にし、シミュレーションや試作等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する	
		①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力	身近なところから課題に関する様々な情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理する	調査や資料等から情報を収集し、情報同士をつながりを見つけたり、観点を決めた簡単な表やグラフ等を得得た「考えるための技法」を用いて情報を整理する	目的に応じた情報メディアを調査、調査や実験等と組み合わせながら情報収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理する	
		②新たな意味や価値を創造する力	情報の大体を捉え、分析・整理し、自分の言葉でまとめる	情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見いだす	情報の傾向と変化を捉え、類似点や相違点を見つけ出し、他者の活用や意図しながら問題に対する解決策を考察する	
		③受け手の状況を踏まえて発信する力	相手を意識し、わかりやすく表現する	表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせて適切に表現する	目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせて表現し、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現する	
		④自らの情報活用を評価・改善する力	問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる	自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いのかを考える	情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考える	
		等			等	
	2 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①多角的に情報を検討しようとする態度	a 事象と関係する情報を見つけようとする	情報同士をつながりを見つけようとする	情報を構造的に理解しようとする	
		b 情報を複数の観点から捉えようとする	情報を複数の観点から捉えようとする	新たな視点を受け入れて検討しようとする	物事を批判的に考察しようとする	
		②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	a 問題解決における情報の大切さを意識して行動する		目的に応じた情報の活用の見通しを立てようとする	複数の視点を想定して計画しようとする
			b			情報を創造しようとする
		3 学びに向かう力・人間性等	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度	a	自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする	情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする
				b	コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする	通信ネットワーク上のルールやマナーを踏まえ、行動しようとする
②情報社会に参画しようとする態度	c				生活の中で必要となる情報セキュリティについて踏まえ、行動しようとする	
	d					
	e				発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする	
	f				情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	
a	情報や情報技術を適切に使おうとする	情報通信ネットワークを協力して使おうとする	情報通信ネットワークは共用のものであるという意識を持って行動しようとする			
b		情報や情報技術を生活に活かそうとする	情報や情報技術をよりよい生活や社会づくりに活かそうとする			

ステップ4	ステップ5	想定される学習内容
キーボードなどによる十分な速さで正確な文字の入力	効率を考えた情報の入力	<b>基本的な操作等</b> <b>プログラミング</b>
電子ファイルの運用(圧縮・パスワードによる暗号化、バックアップ等)	電子ファイルの適切な運用(クラウドの活用や権限の設定等)	
目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作	目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作 《ステップ4と同じ》	
クラウドを用いた協働作業	クラウドを用いた協働作業 《ステップ4と同じ》	
情報の流通についての特徴	情報の流通についての科学的な理解	
情報を伝えるメディアの種類及び特徴	情報を伝えるメディアの科学的な理解 ※1	
表現、記録、計算の原理・法則	表現、記録、計算の科学的な理解 ※2	
社会におけるコンピュータや情報システムの活用	社会におけるコンピュータや情報システムの科学的な理解	
情報のデジタル化や処理の自動化の仕組み	情報のデジタル化や処理の自動化の科学的な理解	
情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組み	情報通信ネットワークの構築と科学的な理解 ※3	
情報のシステム化の基礎的な仕組み	情報のシステム化の科学的な理解(コンピュータや外部装置の仕組みや特徴等)	
問題発見・解決のための安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等	問題発見・解決のためのプログラムの制作とモデル化 ※4	<b>問題解決・探究</b> <b>情報モラル・情報セキュリティ</b>
アクティビティ図等の統一モデリング言語によるアルゴリズムの表現方法	アクティビティ図等による適切なアルゴリズムの表現方法	
情報通信ネットワークなどからの効果的な情報の検索と検証の方法	情報通信ネットワークから得られた情報の妥当性や信頼性の特殊の仕方	
調査の設計方法	統計的な調査の設計方法	
意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係	主張と論拠、主張とその前提や反証、個別と一般化などの情報と情報の関係	
比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方	推測の仕方、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法	
表やグラフを用いた統計的な情報の整理の方法	統計指標、図解、検定などを用いた統計的な情報の整理・分析の方法	
目的に応じて情報の傾向と変化を捉える方法	目的に応じて統計を用いて客観的に情報の傾向と変化を捉える方法	
情報を統合して表現する方法	情報を階層化して表現する方法	
Webページ、SNS等による発信・交流の方法	Webページ、SNS、ライブ配信等の発信・交流の方法	
安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法	安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法 《ステップ4と同じ》	
条件を踏まえて情報及び情報技術の活用を計画を立てる手順	モデル化やシミュレーションの結果を踏まえて情報を活用する計画を立てる手順	<b>情報モラル・情報セキュリティ</b> <b>情報モラル・情報セキュリティ</b>
情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手順	情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し改善する手順	
情報システムの種類、目的、役割や特性	情報システムの役割や特性とその影響、情報デザインが人や社会に果たしている役割	
情報化による社会への影響と課題	情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響	
情報に関する個人の権利とその重要性	情報に関する個人の権利とその重要性 《ステップ4と同じ》	
社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていること	情報に関する法理や制度	
情報セキュリティの確保のための対策・対応	情報セキュリティの確保のための対策・対応の科学的な理解	
仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性	仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの科学的な理解	
情報社会における自分の責任や義務	情報社会における自他の責任や義務の理解	
健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方	健康の面に配慮した日常的な情報メディアの利用方法	
問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用の計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する	問題の効果的な解決に向け、情報やメディアの特性や情報社会の在り方等の諸条件を踏まえ、解決に向けた情報活用の計画を複数立案し、他者と協議しながら試行錯誤と評価・改善を重ねながら実行する	
調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせて活用したりして整理する	分析の目的等を踏まえて調査を設計し、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を自在に活用したりして整理する	<b>問題解決・探究における情報活用</b> <b>プログラミング</b> <b>情報モラル・情報セキュリティ</b>
目的に応じ、情報と情報技術を活用して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対する多様な解決策を明らかにする	目的に応じ、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、モデル化やシミュレーション等を行いながら、情報の傾向と変化を捉え、多様な立場を想定し、問題に対する多様な解決策を明らかにする	
目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信・創造する	メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、目的や受け手の状況に応じて適切に効果的な組み合わせを選択・統合し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信・創造する	
情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかを論理的に考える	情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかをオンラインコミュニティ等を活用しながら論理的・協働的に考える	
事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする	事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする 《ステップ4と同じ》	
物事を批判的に考察し判断しようとする	物事を批判的に考察し新たな価値を見いだそうとする	
条件を踏まえて情報及び情報技術の活用を計画を立て、試行しようとする	条件を踏まえて情報及び情報技術の活用を計画を立て、試行しようとする 《ステップ4と同じ》	
情報及び情報技術を創造しようとする	情報及び情報技術を創造しようとする 《ステップ4と同じ》	
情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする	情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し改善しようとする	
情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする	情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする 《ステップ4と同じ》	
社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを踏まえ、行動しようとする	情報に関する法規や制度の意義を踏まえ、適切に行動しようとする	
情報セキュリティの確保のための対策・対応の必要性を踏まえ、行動しようとする	情報セキュリティを確保する意義を踏まえ、適切に行動しようとする	
仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を踏まえ、行動しようとする	仮想的な空間の保護・治安維持のためのサイバーセキュリティの意義を踏まえ、適切に行動しようとする	
情報社会における自分の責任や義務を踏まえ、行動しようとする	情報社会における自他の責任や義務を踏まえ、適切に行動しようとする	
情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、適切に行動しようとする	情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、適切に行動しようとする 《ステップ4と同じ》	
情報通信ネットワークの公共性を意識して行動しようとする	情報通信ネットワークの公共性を意識し、望ましい情報活用の在り方について提案しようとする	
情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする	情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする 《ステップ4と同じ》	